

ついじまつ COMMUNICATION

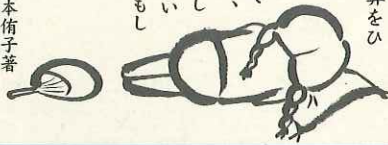


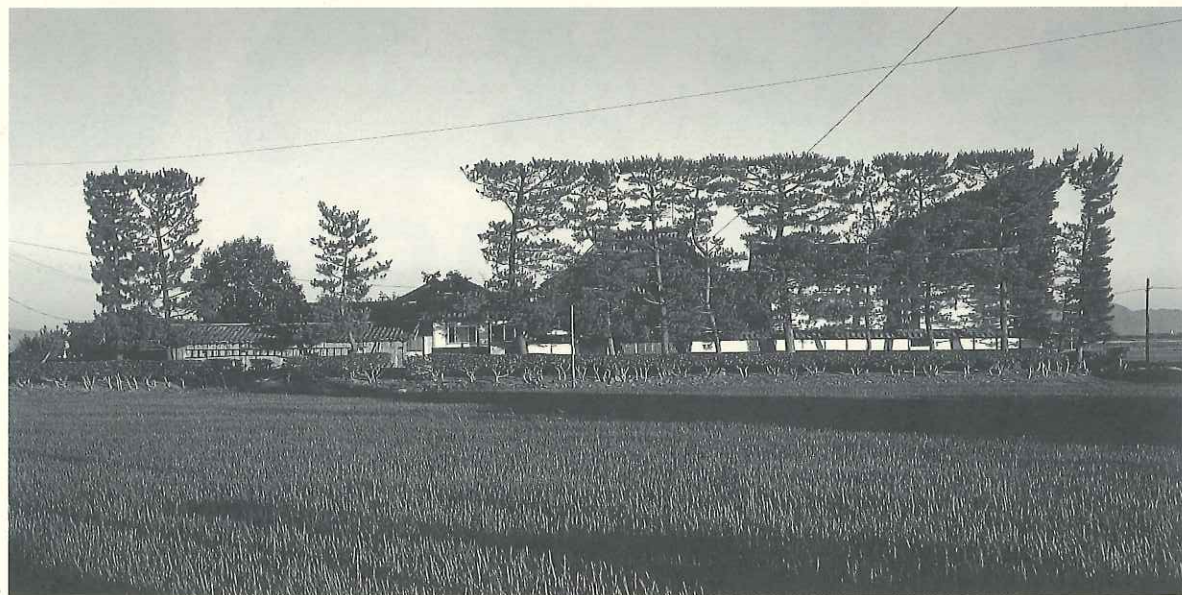
ついじまつコミュニケーション: 築地松情報誌1999.6月

発行-築地松景観保全対策推進協議会

夏、この築地松のそばの
部屋でするお昼寝とい
つたら最高です。青い稲
田をわたって、そよそよ
風が吹いてきて、築地松
の枝を通りぬけ、部屋
に入ってきます。扇風機
の風よりずっと優しく
涼しく、すがすがしい匂
いがします。
「ほら、いい匂いをする
でしょう?」と言っても
おじいさんやおばあさ
んにはわかりません。
どんなに鼻をひ
くひくさせ
ても、何も
匂わない
と言うので
す。これは、
子どもにし
かわからない
匂いなのかし
れません。

松本侑子著
『美しい雲の国』
(集英社文庫)より引用





出雲地方の風物詩「築地松」

「汽車でこの簸川平野を通る県外の人々が、みな一様に感ずるものは築地松の景観でありましょう」とは、郷土をこよなく愛した郷土史家故岡義重氏の遺稿『郷土斐川物語』(昭・五十二)の中での一節であります。出雲平野に点在する築地松に囲まれた民家は全国でも稀で、散村集落の典型と言えます。このことは、昭和五十一年度における斐川町漆治地区の町並保存のための文化庁の調査や平成二年度の日本ナショナルトラスト(観光資源保護財団)の候補地に決定されたことから言えます。

冬の白銀、春の新緑、秋の黄金と移り変わる稲田にうつる濃紺の築地松の景観は絶えず接している者でも、その造形の美しさにしばしば旅情を誘うほどです。

日本の故郷を求めて出雲を訪れる人達には夕日に映える宍道湖とともに、この地方独特の家構えと築地松は神々の里である出雲の象徴として心に強く焼きつくことでしょう。

しかし、古来から出雲地方の風物詩ともいべきこの築地松も激しい時代の波に押し流されようとしています。

築地松は松くい虫の猛威により、年々その被害が拡大し今や完全な姿を残しているものは数える程しかありません。また、陰手刈り作業(四、五年ごとの松の剪定)の職人不足、家屋の増築、さらには枝おろしした枝葉も燃料として必要としなくなるなどの要因が、屋敷森の形そのものを大きく変えつつあります。

また、築地松と絶妙の調和を保っていたクズヤ(草葺屋根)も極めて希少な存在となり、まして母屋に庇のないジクダレ(葺き下し)の民家などは大変少なくなりました。美しい反棟の草葺きが瓦屋根に変わり、雨戸がサッシ戸に、竹垣や生垣がブロック塀に変わるのも時代の流れでありましょうか。

(有田 宗一)

暮らしの中で

「生活の必需品、それが築地松」

松浦 勇さん (平田市灘分町在住)

北山の裾近く、東に宍道湖を臨み田畑に囲まれ、自然の宝庫に位置する松浦さん宅。築地松には鳥が集い、夏には蛍の神秘的な光が枝々を浮遊し、四季折々の風情が楽しめる。幼い頃に、友達と競って肝試しとばかりに築地松に登り、降りられなくなると苦笑する松浦さん。しかし、豊かな自然に囲まれているが故に日々の生活には楽しさ以上に厳しさが伴う。周囲に障害物がいないために、風は松浦さん宅に容赦なく吹きつけ、その勢いは地をも揺るがさんばかりだ。だから、築地松は風から大切な家族を守るために必要不可欠のだと松浦さんは強く語る。そして、失ってはならないものとして手間暇をかけることを厭わないのだという。そんな松浦さんの姿を見て育った3人のお嬢さん達も築地松の大切さは身にしみているようだ。3女の美由紀ちゃんが「風が吹いてもお家の中は平気だよ。だから築地松はいいんだよ。」と教えてくれた。親から子へ築地松のある生活は、確かに引き継がれている。



お知らせ

築地松景観保全対策推進協議会からのお知らせ

—平成11年度築地松景観保全対策推進協議会総会について—

平成11年5月26日(水)出雲市役所において総会を開催しました。本年度の事業計画は次のとおりです。

- 「ついでまつ COMMUNICATION」の年度内3回発行(各戸配布と県外へ向けた情報発信)
- インターネットによる情報発信
- 築地松景観保全住民協定の締結の促進
- 築地松保全に対する助成金の交付
- 陰手刈職人座談会の開催
- 築地松促成栽培の研究・実験
- 陰手刈作業の技術を後世に伝え残すビデオの作成(今年度末完成)
- 築地松実態調査・住民意識調査

日本中でこの出雲平野にしかない築地松の保全のために、これらの事業を積極的に展開していきますので、みなさまのご協力をお願いします。



促成栽培松の計測

助成制度

築地松協定に基づく、築地松の維持管理費を助成します。

■助成対象となる維持管理内容

1. 松枯れの防除
2. 枯れ松の伐倒
3. 築地松の剪定
4. 築地松の新植・補植

■助成金を受けるのに必要なもの

1. 維持管理に要した経費の領収書
2. 写真

注・この助成金は、同一の築地松に対しては、4年間に1回です。助成金に関するお問い合わせは、築地松景観保全対策推進協議会(次ページ下欄参照)までお願いします。

■助成金の交付額

維持管理に要した経費の2分の1以下で上限が10万円までです。



築地松の維持管理について、意見が飛び交う陰手刈り座談会



築地松の剪定、陰手刈り

築地松の調査のお願い

築地松実態調査・住民意識調査のお知らせ

平成6年度に当協議会で実施しました築地松実態調査と住民意識調査を、すこし内容・実施方法等を変更して本年度実施します。

築地松を後世に伝えていくために、築地松の状況と、そこに住んでおられる皆様の築地松に対する意識を今後の築地松景観保全事業に大いに活用していくための調査です。

実態調査については、平成11年7月から9月にかけて4市町の現地に調査に入ります。また住民意識調査については、同じ時期に各市町を通じて住民の皆様へアンケートを依頼しますので、ご迷惑をお掛けしますが、ご協力をお願いします。



平成6年に発行された築地松調査報告書





GALLERY つ い じ ま つ ギ ャ ラ リ ー GALLERY

「月明」昭和62年パリ ル・サロン優秀賞受賞作

石飛 鴻(多伎町在住)

本名石飛 赴。書画家。パリ サロン・ドートンヌ会員、パリ ル・サロン永久会員、日本国際美術家協会会員ほか。はたご小田温泉、茶寮清泉亭主人。東洋大学大学院卒、武蔵野美術短期大学卒。昭和44年日展入選後、昭和62年・平成2年パリ ル・サロン優秀賞、平成2年フィナール国際美術展グランプリ、パリ サロン・メ招待など、国内外で受賞多数。



松本 侑子 (まつもと ゆうこ)

作家。1963年出雲市生まれ。筑波大学卒業。著書に『巨食症の明けない夜明力』(すばる文学賞受賞)、『別れの美学』の他に書評、エッセイ、『赤毛のアン』の翻訳など、最新刊は『光と祈りのメビウス』。

表紙紹介作品/『美しい雲の国』について

『美しい雲の国』は、出雲の田園風景の中で育つ少女の視点で描かれた小説で、路傍の石文学賞の候補作、山形県の読書感想文コンクール課題図書となりました。大人になった主人公、村上美雲が10歳の頃の夏休みの思い出を回想していきます。少年との出会い、おじいさんやおばあさんとの生活、弟の誕生、少年の弟の病死。その時々心の動きが出雲の風物詩を背景にいきいきと描かれています。又、作品中様々な趣きの築地松が美雲の生活にとけこみながら登場します。

『築地松について』/松本 侑子

築地松は、北西の季節風が強いという出雲の風土が作り出したものですが、単なる屋敷森というだけでなく、そり返った端正なデザインには、出雲の人々が長い歴史の中ではぐくんできた、どこか大陸的な美意識を感じさせてくれます。

今は住宅建材がよくなって防風林の必要はないかもしれない、また松の維持費も高いかもしれませんが、出雲平野に松の緑がなくなると、みずみずしい水田の風景はがらりと変わってしまうと思います。

築地松景観保全対策推進協議会

島根県環境生活部景観自然課 〒690-8501 松江市殿町1番地

電話 0852-22-6143

平田市建設経済部農山漁村課 〒690-8601 平田市平町951-1

電話 0853-63-3111

島根県出雲総務事務所 〒693-8511 出雲市大津町1139

電話 0853-23-1515

斐川町企画財政課

〒699-0592 斐川町大字庄原町2172

電話 0853-73-9211

出雲市建設事業部建築課

〒693-8530 出雲市今市町109-1

電話 0853-21-2211

大社町企画課

〒699-0792 大社町大字杵築南1395

電話 0853-21-3112

ついでまつホームページアドレス <http://www.pref.shimane.jp/section/keikan/>